

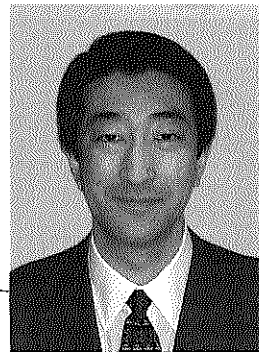
最近、和製英語が世界に通じることが話題になっていきます。「Sunami」だとか「Mottainai」などが日本発の世界共通語として知られています。では「Kampo」は世界に通用するのでしょうか？答えはイエスであり、ノーでもありません。

イエスというのは伝統医学の世界で「Kampo」と言えば日本の伝統医学である、という認識があり、アメリカ国立医学図書館の医療文献「アータベース」で「Kampo」を検索すると500以上の文献が引用できます。ノーである、というのは、実際に「Kampo」という用語を知っている人はごく一部の人のに限られている、という事実です。

数年前にミネソタ大学医学部で講義をしたことがあります。学生全員「伝統中医学・TCM」は知っておりましたが、「Kampo」が分かる学生は一人もおりませんでした。しかし、日本では医療用として医師が日常診療に用いている、という話をすると全員の驚きの声を上げました。

本年5月にカナダのトロントで北米補完統

慶應大学医学部助教授



渡辺 賢治

漢方シリーズ ③

Kampo は世界に通じる？

合医療学会があり、参加して来ました。ちなみに「補完医療」というのは、元々英国を中心とする欧州から「代替医療」というのは米国政府の作った名称ですが、それを

合わせて「補完代替医療（CAM）」と呼ばれてきました。しかし米国の医師たちは、この「代替」という用語に反対しており、むしろ「統合医療」という言葉を推進してお

ります。この学会に、全世界22カ国から1000人近い研究者が参加しました。が、残念ながら漢方の発表はわれわれのグループから3題のみで、日本か

らの参加者も数名でした。しかし、「漢方は伝統医学の中でも西洋医学に受け入れられやすい医学である」とか、「漢方薬の品質は高いので日本と共同研究したい」などという声の一部の研究者から聞けたことは勇気づけられました。

この学会には米国の米国国立衛生研究所からも10人くらい参加しており、CAMの推進に力を入れていました。現在CAMの研究に使われる予算は年々増加しており、NIHの中の国立補完代替医療センターは年間予算150億円ほどですが、国立癌センターなどの他のNIH機関での予算を総計すると300億円以上になります。いかに米国がこの領域に関心が高いかが分かります。

東洋の思想と密接に結びついた漢方医学が西洋の人たちに理解できるのか、と疑問に思われる方もいらっしゃると思いますが、私どもの研究室にはこの2年間だけでも欧米から10人以上の医師・医学者が1カ月単位で滞在しております。中には一年以上の長期滞在者もおります。彼らはきちんと漢方の基礎概念を理解して帰国します。

漢方は日本では医療用になっており、医師が用いている正規医療の一部ですが、世界的にはこの事実すら知られておりません。これは日本の宣伝不足に他なりません。世界は日本のことを知りたがっています。ぜひとも日本の外で、漢方医学のことを伝えてほしいと思います。